

平成14年7月より、「リトリートカンファランス」を月1回定期的(第3週水曜日18:30~20:00)に行なっております。主な目的としては、他の同僚の仕事の話を聞き、自分の仕事へのアイデアにしたり、あるいは発表者にコメントをしてお互いに興味を高めることを目標としています。retreatとは一歩引き下がって見つめ直すという意味です。

テーマは自在ですが横断的であることが望ましく、難しい内容も論理的かつ判りやすく誰にでも理解できるように話をする事になっています。温故知新、気楽にかつ積極的に参加できるようなカンファランスを目指していますので近隣医療機関の医療従事者の方も自由に参加することができます。

◎過去におけるカンファランス並びに今後の予定は次のとおりです。

開催日	演題名	演者	人数
1 平成14年7月24日	判りやすいACLS 1. 新しい心肺蘇生のガイドライン 2. アルゴリズムの説明 3. ビデオ・デモンストレーション 4. IMCJにおけるACLSコース 5. ACLSコースの先進性	・富岡譲二緊急治療医長 ・宮島医師 ・佐野哲孝医師 ・畑岸医師 ・木村昭夫緊急部長	169
2 平成14年9月11日	1. ピロリ菌と胃がん 2. 診療報酬改訂	・上村直実内視鏡部長 ・今村孝雄庶務課長	143
3 平成14年10月23日	1. 結核治療の新しい方向 2. 脳梗塞の最近の治療	・工藤副院長、此崎検査技師、豊田恵美子医長、東野副看護師長、小林医長、 ・國本雅也医長、上坂義和医長、羽井佐利彦医長、藤谷順子医長	130
平成14年11月20日	褥瘡チームの取り組み		126
5 平成14年12月18日	1. 肝癌の集学的治療ーラジオ波を中心としてー 2. 生活習慣病への取り組み	・今村雅俊医長 ・葛谷部長、梶尾医長	132
6 平成15年1月22日	1. アフガニスタン医療協力の報告 2. 再生医療の今後	・宮島生夫研修課長、小山内泰代派遣協力課看護師 ・玉木毅医長、松林薫美医長、廣江道昭部長	113
7 平成15年2月19日	1. 地域医療連携と在宅医療について 2. こんなこともできる内視鏡下手術	・工藤宏一郎副院長、伊藤顕彦伊藤外科院長、英裕雄新宿ヒロクリニック院長、大野邦彦大野医院院長 ・寺島裕夫医長、奥脇英人医師、桂川陽三医長	151
8 平成15年3月19日	後発医薬品ってなあに？ 1. 診療報酬との関係は？ 2. 国立病院の医薬品等購入費における後発品の役割 3. なぜ今後後発医薬品なの？	・雨宮敏夫医事専門官 ・山口 耕会計課長 ・三島薬劑部長	107
9 平成15年4月16日	「定位的放射線治療を中心とした放射線治療の進歩」 1. 定位的治療一般に関して 2. 放射線治療全般の中で定位的放射線治療が持つ意義に関しての報告、その他の放射線治療最新の進歩に関して 3. 体幹部腫瘍の定位的放射線治療に関して	・近藤達也院長 ・伊丹 純医長 ・原 竜介医師	64
10 平成15年4月23日	SARS等新感染症の対応について 1. 異型肺炎の概念と治療 2. ヴィエトナム・ハノイ・香港・広東におけるSARSに関する報告 3. 新感染症病棟、外来棟の対応 4. 看護における対応 5. 診療報酬上の取扱い	・工藤宏一郎副院長 ・川名明彦医長、照屋勝治医長、小原博派遣協力専門官、切替照雄感染・熱帯病研究部長 ・岡慎一臨床研究開発部長 ・浅沼智恵看護師長 ・藤田順一医事班長	233
11 平成15年5月28日	SARS等新感染症の対応について 1. 異型肺炎の概念と治療 2. ヴィエトナム・ハノイ・香港・広東におけるSARSに関する報告 3. 新感染症病棟、外来棟の対応 4. 看護における対応 5. 診療報酬上の取扱い	・川名明彦医長、照屋勝治医長、小原博派遣協力専門官、切替照雄感染・熱帯病研究部長 ・岡慎一臨床研究開発部長 ・浅沼智恵看護師長 ・藤田順一医事班長	256
12 平成15年7月2日	嚥下障害と栄養管理 1. 栄養評価と経腸栄養の必要性 2. 経口摂取障害の評価をその対策	・河内正治部長 ・田山二朗医長	86
13 平成15年7月2日	1. コンピューター支援手術 2. ロボット手術(ダビンチ)	・黒木啓文医長、田山二朗医長、原 徹男医長 ・寺島裕夫医長	44
14 平成15年7月18日	「創傷治療とガーゼ」	相澤病院外傷治療センター長夏井 睦先生	130
15 平成15年8月26日	慢性頭痛への対処～特に片頭痛の治療と進歩～ ・緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛 ・危険な頭痛(頭痛を心配しないために) ・片頭痛治療の実際	・神経内科 國本雅也医長 ・上坂 義和医長	176
16 平成15年9月17日	病院マネージメントのあり方とその実際	東京大学医学部附属病院長 永井 良三教授	83
平成15年10月15日	疼痛コントロール ・癌による痛み～痛みの特徴と治療～ ・癌性疼痛を持った患者様の在宅医療の一例	・麻酔科医長 河内正治医長 ・緩和ケア科医長 有賀 悦子医長	181
平成15年11月13日	退院支援	東京大学医学部老年病学 大内 耐義教授	167
19 平成15年11月19日	冬季SARS流行の予想と対策 ・当センターの対策 ・各対策班から 1. 感染対策班 2. SARS診療班 3. 知見データー班 4. 派遣班	・木村哲治療研究開発センター長 ・岡慎一臨床研究開発部長 ・倉辻忠俊副研究所長 ・小原博派遣協力専門官	180
20 平成16年1月21日	患者中心のチーム医療における看護師の役割～癌看護を通して～ 1. がん看護について 2. 合同カンファランスからチーム医療を考える 3. インフォームドコンセントにおける看護師の役割 4. ターミナルケア研究会の活動	・切手純代副看護師長 ・庄野純子副看護師長、藤島美和看護師 ・岩丸陽子副看護師長 ・鈴木直子看護師、切手純代副看護師長	120
21 平成16年2月26日	「生と死の戦い」重症患者が教えてくれた医学	日本大学医学部救急医学教室 林 成之	
22 平成16年3月31日	今日の大腸癌～最新の診断・治療戦略～ 1. 早期大腸癌の内視鏡診断と治療 2. 進行大腸癌の手術とその成績	・為我井芳郎医長 ・齊藤幸夫医長	128
23 平成16年4月21日	PET(ポジトロン断層)検査入門 1. PETとは 2. PETの特徴 3. PETの有用性 4. PET検査の注意点 5. 心筋の検査について 6. PETの安全性	・窪田 和雄 医長	95
24 平成16年5月19日	栄養管理とIMCJの現状 1. IMCJ栄養士の活動 2. IMCJ入院患者の栄養状態について 3. NSTを作ろう!	・長谷川栄養係長 ・杉山栄養管理室主任 ・河内正治部長	83

開催日	演題名	演者	人数
25 平成16年6月16日	チーム医療 1.「原発性肺高血圧合併妊娠・出産をチーム医療で成功した一例」 コメンテーター:河内 正治(第一病棟部長(麻酔科))「麻酔と産科のかかわり」 2.「本症例の出生以後の経過と現実の日本の新生児医長の現状」 ・国際母子構想に向けて」 3.「合併症妊娠取扱いの注意点及び国際母子TFについて」 —国際母子センターの目指すもの—	・菊池 聡子医師、河内 正治部長 ・國方 徹也(四階南病棟医長(小児科)) ・箕浦 茂樹産科医長	126
平成16年7月21日	「睡眠時無呼吸症候群(SAS)」 —複数科によるアプローチ— コーディネーター:田山 二郎(耳鼻咽喉科)胃腸科医長	・呼吸器科 吉澤 篤人医師 ・神経内科 國本 雅也医長 ・歯科・口腔外科 田上 正医長 ・耳鼻咽喉科 熊谷 謙医師	108
27 平成16年8月18日	「国際医療センターの国際的意味を考える。」 —組織作り、仕組みづくりの視点から— ・国際医療協力はどんな仕事なのか、どんな内容なのか ・国際医療の経験はなに役立つのか 1. パウマイ病院での救急部確立について 2. 生活習慣病教室での国際医療協力の経験の活用 3. 国際母子保健センターの理念形成と開発途上国の母子保健対策	・仲佐 保(派遣協力)課長 ・木村 昭夫(緊急部長) ・梶尾 裕内(内分泌代謝科)医長 ・藤田 則子(派遣協力)専門官	97
28 平成16年9月15日	交感神経—その本質に迫る—複数科によるアプローチ 1. 交感神経とは何か(交感神経系概論) 2. 交感神経ブロックと適応疾患 3. 頸椎疾患と交感神経 4. 頸椎疾患と手術手技	コーディネーター 河内正治(第一病棟部長) 1. 神経内科 上坂 義和 2. 麻酔科 河内 正治 3. 脳神経外科 近藤 達也 4. 脳神経外科 原 徹男	115
平成16年11月4日	人を動かす・自分を変える—新しい医療人のあり方—	北原脳神経外科病棟理事 北原 茂実先生	130
30 平成16年11月17日	ICTの活動、我々の院内感染制御 1. ICTが目指すもの 2. 病棟ラウンドについて 3. 針刺し事故の現状 4. 呼吸器症状サーベイランス 5. 院内感染事例 遺伝子解析を用いた証明	コーディネーター 菊池 嘉 1. 専門外来 照屋 勝治 2. 感染管理看護師(ICN)堀井 久美 3. 感染管理看護師(ICN)黒田 恵美 4. 特別疾病班 庄班医長 川名 明彦 5. 感染制御研究部長 切替 照雄	117
31 平成16年12月15日	看護の専門性を追求して —国立国際医療センターの認定看護師の活動と発展— 1. 専門看護師・認定看護師と治験って何？ 2. 治験看護師 3. がん性疼痛認定看護師 4. WOC認定看護師 5. 感染管理認定看護師	コーディネーター 看護部長室 木村 弘江 1. 治験管理室 児島 里美 2. 11階南病棟 加藤 美鈴 3. 5階北病棟 石川 環 4. 医療安全管理室 黒田 恵美 5. 9階南病棟 堀井 久美	111
32 平成17年1月20日	病診連携 1. 病診連携 Wの会—診療所側の取り組みと考察— 2. 病診連携 Wの会—病院側の取り組みと考察— 3. 総括	コーディネーター 清水 利夫(副院長) 1. 丹羽 義和 先生 にわメディカルクリニック 院長 2. 山室 渡 先生 済生会神奈川病院 副院長 3. 中村 眞巳 先生 中村胃腸科内科 院長	132
33 平成17年2月16日	がん性疼痛緩和—ケアの基本と内服治療を中心に— 1. 痛みの考え方と看護師のからのアプローチ 2. オピオイドの基本と特徴 3. 症例からみるがん性疼痛緩和の実践	コーディネーター 前原 康宏 1. がん性疼痛看護認定看護師 加藤 美鈴 2. 薬剤師 貴船 亮仁 3. 緩和ケア科 有賀 悦子	145
34 平成17年3月8日	災害支援の現場から—スマトラ沖地震と中越地震の場合— 1. 災害医療とは何か？ 2. スマトラ沖地震の現場から 3. 中越地震の現場から	コーディネーター 仲佐 保(派遣協力)第二課長) 1. 富岡 謙二(緊急治療医長) 2. 明石 秀親(派遣協力)医長 3. 後藤 久美子(10階北病棟看護部長) 3. 早川 依里子(小児科)医師 加世田 久美子(集中治療室)看護師長	112
35 平成17年4月20日	がん性疼痛管理—その②— 1. 放射線治療 原 竜介(放射線科) 2. 経皮的椎体成形術 蓮尾 金博(放射線科)診療部長 3. がん性疼痛の管理方法のまとめ 河内 正治(手術部長)	司会 河内 正治(手術部長) 1. 原 竜介(放射線科)医師 2. 蓮尾 金博 (放射線科)診療部長 3. 河内 正治 (手術部長)	71
36 平成17年5月18日	アレルギー疾患(その1)喘息 1. アレルギーとは 2. 成人喘息 3. 小児喘息 4. 吸入療法とその指導	司会 小林 信之 小林 信之(呼吸器科)医長 放生 雅章(13階病棟)医長 早川 依里子(小児科)医師 千田 昌之(薬剤部)	131
37 平成17年6月15日	—アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎— 1. アトピー性皮膚炎 2. 小児アトピー性皮膚炎 3. アレルギー性鼻炎 4. アトピー性皮膚炎の症状	玉木 毅(皮膚科)医長 早川 依里子(小児科)医師 田山 二郎(耳鼻咽喉科)医長 武田 憲夫(眼科)医長	100
38 平成17年7月1日	NSTの果たすべき役割	司会 河内 正治 ・藤田保健衛生大学 外科学・緩和ケア講座教授 東口 高志先生	142
39 平成17年7月28日	将来、国際医療協力を目指す人たちのために 1. 国際医療協力:派遣課に入り、見た初めての世界 2. 海外協力の長期の実践から、国際協力の研究まで 3. ひたすら 国際協力25年 —日本のインシアチブとなったIMCJの活動—	司会 仲佐 保 後藤 美穂(派遣協力)課助産師 小山内泰代(派遣協力)課助産師 仲佐 保(派遣協力)第二課長)	93
40 平成17年9月21日	METS(代謝症候群)をめぐって 1. 代謝症候群とは 2. 生活習慣病と糖尿病の発症 3. センターとしてのこれからの代謝症候群への取り組み	司会 廣江 道昭 高橋 義彦(内分泌代謝科)医師 野田 光彦(臨床検査)部長 木村 壮介(第一専門外来)部長)	90
41 平成17年10月21日	ハンセン病 療養の現状 1. 挨拶 2. ハンセン病とは 3. 栗生楽泉園とハンセン病療養の現状 4. 奄美和光園とハンセン病の保険行政 5. 奄美和光園での経験 6. 栗生楽泉園での経験 7. レジデント教育としての院外への協力 8. 質疑応答 9. まとめ	司会 櫻田 光夫 清水 利夫(副院長) 栗生楽泉園園長 東 正明 ” 奄美和光園園長 前川 嘉洋 藤本 雅史(リハビリテーション科) 山下 裕之(総合診療科) 正田 良介(教育部長)	109
42 平成17年11月21日	骨粗鬆症 —医療者として、将来患者として— 1. 更年期と骨粗鬆症 2. 骨粗鬆症の治療薬について 3. 骨粗鬆症の診断と治療 4. 転倒・転落予防の取り組みについて 5. 職員の皆様の骨粗鬆症予防	司会 黒木 啓文 産婦人科 樹谷 法生(指導医) 薬剤部 松本淳二(無菌製剤主任) 整形外科 黒木啓文 10階北病棟看護部長 後藤由美子 リハビリテーション科医長 藤谷順子	90
43 平成17年12月21日	自然災害における医療活動に備えて—パキスタン北西部地震災害— JMTDR(国際緊急援助隊医療チーム Japan Medical Team for Disaster Relief)の説明 1) パキスタンの状況と災害 2) 国際緊急援助隊医療チーム1次隊に参加して —地震災害と外傷— 3) 国際緊急援助隊医療チーム2次隊に参加して —災害時における携帯X線装置の有用性について	司会 仲佐 保 仲佐保(派遣協力)第二課長) 東京大学 アリ氏 派遣協力課 土井正彦 放射線部 藤本幸宏	68
44 平成18年1月18日	発熱のある海外渡航者の診療 1. トラベルクリニックの地域での役割 2. 海外渡航者の発熱の見方 3. マラリア 4. デング熱 5. 呼吸器感染症	総合司会 工藤宏一郎 DCC渡航者健康管理室医長 金川修造 ACC・DCC渡航者健康管理室 源河いづみ 国際医療協力局・DCC渡航者健康管理室 水野泰孝 呼吸器科・DCC特別疾病班 加藤康幸 DCC特別疾病班班医長 川名明彦	100
45 平成18年2月15日	1) 挨拶 2) 院内各部署とACCの連携 3) 抗HIV治療の変遷 臨床的な事柄の質疑の時間 10分程度 4) はばたき福祉事業団理事長からお言葉 5) 厚生労働省医政局国立病院課長からお言葉	総合司会 菊池 嘉 木村 哲 治療研究開発センター長 菊池 嘉 治療研究開発センター病棟医長 岡 慎一 臨床研究開発部長 大平 勝美 はばたき福祉事業団理事長 外山 千也 厚生労働省医政局国立病院課長	141

開催日	演題名	演者	人数
平成18年3月15日	「母と子や家族にやさしい病院づくりー国際母子センターのめざすものー」 1. はじめに、一総合診療をめざす当センターにおける国際母子の重要性 2. 地域連携の新たな試みー地域の助産所と連携した周産期体制の構築ー 3. 最高の新生児医療をより多くの人に 4. 変貌する小児の医療の時代を迎えてー小児医療の直面する問題と今後ー 5. 国際協力における母子保健の重要性、そして途上国と日本の母子保健の課題や取り組みの類似点 6. HIV感染妊娠と新生児の実績ー総合診療の一例としてー	総合司会 箕浦 茂樹 箕浦茂樹 (産婦人科) 三島典子 (助産師) 国方徹也 (小児科) 佐藤典子 (小児科) 小原ひろみ(協力局) 小早川あかり (産婦人科)	83
平成18年4月19日	『不整脈治療 up to date』 1. カテーテルアブレーションと電気生理学的検査 (EPS) 2. ペースメーカーと植込み型除細動器 (ICD) 3. 不整脈の外科手術 (Maze手術) 4. 心室再同期療法 (CRT) および医師主導型治療 5. 質疑応答	総合司会 岡崎 修 (10階南病棟医長 循環器科) 副島洋行 (循環器科医師) 榎田光夫 (循環器科医長) 保坂 茂 (心臓血管外科医長) 岡崎 修	98
平成18年5月17日	血液浄化療法の威力 1. 血液浄化療法 概説 2. HD/HDFの看護 LDL 3. LDLアフェーレンス 4. 関節リウマチの白血球除去カラム治療 5. 劇症型肝不全と血液浄化法・・・血漿交換の意義 6. 血液浄化療法を利用した重症感染症に対する一外科の取り組みー 7. 心臓血管手術周術期における血液浄化法 8. 質疑応答	総合司会 日ノ下 文彦 腎臓内科 日ノ下文彦 特殊診断治療部看護師長 丹治 郁子 腎臓内科 中村 太一 膠原病科 三森 明夫 救急部 佐藤 守仁 外科 須田竜一郎 心臓血管外科 賀嶋俊隆	120
平成18年6月14日	「アスベスト」 ～あなたも正しい認識を！～ 1 悪性胸膜中皮腫とはどんな病気？ 1) 内科的な診断と治療 (15分) 2) 外科的な診断と治療 (15分) 2. 石綿の健康障害とその対応 (60分: 質疑応答を含む)	総合司会 小林 信之 呼吸器科 石井 聡 呼吸器外科 森田 敬知 横浜労災病院 アスベスト疾患ブロックセンター長 武内 浩一郎先生	122
平成18年7月19日	夢を語る「MSSC(運動感覚制御)グループ」の活動」 1. MSSCとは 2. 事例1 Bell麻痺と顔面痙攣 1) 耳鼻科 診療科紹介 2) 神経内科 診療科紹介 3) リハビリ科 リハビリ 4) 麻酔科 星状神経節ブロック 5) 形成外科 Bell麻痺後の形成 6) 眼科 兎眼 7) 脳神経外科 顔面痙攣への手術 3. 事例2 足の変形と靴 1) 整形外科 外反母趾等 2) 皮膚科 足のたこ、巻き爪 3) リハビリ科 靴の外来紹介 4. MSSCホームページと今後の勉強会の予定 質疑応答	総合司会 國本 雅也 大木 雅文 上坂 義和 藤谷 順子 前原 康宏 松林 薫美 武田 憲夫 原 徹男 桂川 陽三 玉木 毅 藤谷 順子 武田 憲夫	68
平成18年9月20日	①放射線検査の医療安全 特にCT・MRI検査について 放射線診療部で行われている放射線画像診断検査のCT検査及びMRI検査の医療安全についてお話しします。 ②PET検査を効果的に利用していただくために: PETの臨床利用 PET検査は全身の腫瘍診断、てんかんの病巣診断、心筋バイアビリティ診断、炎症病巣の診断などに有用です。当院での様々な臨床例(主にPET-CT)を紹介し、効果的な使い方、PETの限界について説明します。また、保険適応や検診利用についての最近の動向も解説します。 ③質疑応答	総合司会 小林 一三 (診療放射線技師長) 放射線診療部主任 藤田知之、大沼裕 第三放射線科医長窪田和雄	64
平成18年10月18日	「わが国における専門医制度の将来構想」 横浜労災病院院長 藤原研司先生 質疑応答	総合司会 正田良介(総合外来部長) 正木尚彦医長、矢郷祐三先生	90
平成18年11月15日	職員の健康を守る (医師のメンタルヘルス等) 1. 職員の健康管理の仕組み 2. 職員のメンタルヘルス 3. 針刺し事故防止 4. 職場の呼吸器感染症対策 5. 職員の健康管理を脅かす院内感染の蔓延 6. 質疑応答	総合司会 清水利夫(副院長) 1. 庶務課 厚生係 2. 今井 公文 精神科医長 3. 黒田 恵美 13階北病棟副部長 4. 杉山 温人 12階南病棟医長 5. 切替 照雄(感染症制御研究室長)	76
平成18年12月20日	院内暴力をいかに予防、対応すべきかー医療者として考えよう 1. 看護の現場からの報告「セクシャルハラスメントへの対応と予防」 2. 診療の現場からの報告「緊急診療の現場での暴力行為について」 3. 医療者のための院内暴力行為への対応と予防	総合司会 盛 真知子看護師長(リスクマネージャー) 1. 大柄 昭子(臨床教員) 2. 朝日 茂樹(緊急外来医長) 3. 下里 誠二(国立看護大学校精神看護学講師)	85
平成19年1月17日	「新臨床研修制度～開始3年、その現状を理解するために～」 新臨床研修制度について 指導医講習会について 外科医師 臨床研修システムの評価について 当センターの現状について～研修修了認定、他院との比較など まとめ 懇親会 研修センター地下1階 職員食堂	総合司会 循環器科医長 榎田光夫 厚労省臨床研修審査専門官 村岡 亮 外科 枝元 良広 循環器科医長 榎田 光夫 総合外来部長 正田 良介 病院長 近藤達也 菊地 嘉(臨床研究開発部長)	78
平成19年2月7日	主題:「病院と在宅療養の連携: 自宅退院をスムーズに成功させるには」 ・「担当患者を自宅療養に持っていくには」 ・「在宅医療を行う側より、病院に求めること」 ・「在宅医療でできること」 ・「紹介されたけれど詰めの甘かった症例」 ・「退院調整について」 質疑応答	総合司会: 矢郷祐三 (レジデントチーフ: 消化器科) 緩和ケア科 医長 有賀悦子 新宿ヒロクリニック 院長 英 裕雄先生 コンフォータークリニック 院長 木下朋雄先生 リハビリテーション科 医長 藤谷順子	113
平成19年3月28日	主題:「救急におけるめましの取扱い」 ・「中枢性めましの診断と対応」 ・「脳神経外科的疾患とめまい」 ・「末梢性めましの診断と対応」 質疑応答	総合司会: 田山二郎(耳鼻咽喉科医長) 神経内科 竹内 杜介 脳神経外科 大野博康 耳鼻咽喉科 大木 雅文	47
平成19年4月18日	NST(栄養サポートチーム)の実態 ・平成18年度診療報酬改定後 入院患者の栄養管理はどう変わったか ・国際医療センターNSTについて ・NST活動状況 ・症例報告 ① 外科系NST活動の内容 アウトカムの検討-外科系(みどりチーム) ② NST活動による薬剤使用量の変化 ③ 造血幹細胞移植患者へのNST介入の効果について-血液内科(あかチーム)	総合司会: 河内正治(手術部長) 国際医療協力局長 妻谷真理 手術部長・NST運営委員長 河内正治 栄養管理室長 秋葉 正文 管理栄養士 若菜宣明 NSTが介入した症例を分析して-呼吸器内科(あおチーム) 及川 晶美 薬剤師 森 達也	104
平成19年4月26日(臨時)	「米国に見る、臨床現場におけるSSI(Surgical Site Infection)対策の実態と安全」	総合司会: 枝元良広(外科)・木村壮介(心臓血管外科・第二専門外来部長) 特別講師: 北浜昭夫先生(米国チューレン大学医学部、臨床外科教授) 総合司会: 黒木啓文(整形外科医長)	107
平成19年5月16日 第54回	「女性医師が病院でもっとも活躍するために」 ・女性医師のおかれている現状 医療センター医師のアンケートの結果から 都内の病院の状況・教育部 ・病院における子育て支援体制 ・女性医師の支援の流れと日本医師会の取り組み ・How to survive in the battle field with Fellow (医療界でともに生き抜く方法)	緩和ケア科 篠原明子 有岡宏子 大阪厚生年金病院 清野佳紀先生 日本医師会男女共同参画委員会・再就職事業支援部長 保坂シゲリ先生 広島大学大学院保健学研究科保健学専攻心身機能生活制御科学講座 飛松良子先生	66
平成19年6月20日 第55回	「改訂された救急蘇生法」 ・はじめに ・新ガイドラインの主たる改訂点 ・改訂されたBasic Life Support(成人)のデモンストレーション ・改訂されたAdvanced Life Support(成人)のデモンストレーション ・おわりに ・質疑応答	総合司会: 木村昭夫 救急部長 木村昭夫 救急部レジデント 小林憲太郎 院内看護師インストラクター (説明: 七階南病棟師長 中村正美) 七階南病棟師長 中村正美 (説明: 救急部レジデント 岡田一宏) 救急部長 木村昭夫	180
平成19年7月18日 第56回	「第一線の医療現場からのメッセージ」: 臨床研究」 ・臨床研究研修コースの紹介 ・楽しくやろうよ、臨床研究～ピロリと胃癌を中心として ・臨床家ならではのエビデンス創り～臨床研修・研鑽そして研究へ	総合司会: 桐野高明 研究所長: 桐野高明 内視鏡部長: 上村直実 研究所遺伝子診断治療開発研究部長 加藤規弘	58

開催日	演題名	演者	人数
62 平成19年9月19日 第57回	「虐待」 —家族機能不全に直面した医療現場の苦悩と課題— 1. 法制度から見た医療機関の役割 2. 虐待を疑うとき 3. 講演「医療機関における虐待の対応」	総合司会: 藤谷 順子 ソーシャルワーカー 三枝政行 小児科、救急部 杏林大学医学教授 佐藤喜美	82
63 平成19年10月17日 第58回	「最先端の手術」 1. 受け口や出っ歯は治る? 2. 最近の眼科手術 3. 声帯麻痺の治療 4. 創を早く直すには	総合司会: 黒木啓文 歯科口腔外科医長: 丸山 豊 眼科医長: 武田憲夫 耳鼻咽喉科医長: 山田二郎 形成外科医長: 松林薫美	89
64 平成19年10月25日 (臨時)	講演「死角のない医療とエスプリクニーク」	院長: 近藤達也	128
65 平成19年11月21日 第59回	病院情報システムの今後 1. 病院情報システムの今後 —医療電子化はどうなるべきか— 2. IMCJとMITの共同研究 —過去データの分析中間報告—	総合司会: 清水 利夫 (副院長) 開原 成充 (国際医療福祉大学大学院長・東大名教授) 秋山 昌範 (マサチューセッツ工科大学ローン経営大学院 客員教授)	102
66 平成19年12月19日 第60回	病院感染管理 1. 病院感染で問題になる感染症の話題 2. 当院におけるMRSA分離株の分子疫学的検討 3. 医療従事者の感染対策 4. ICT病棟ラウンド 5. 当院における抗菌剤使用動向 6. トリアージ病棟の紹介及び新型インフルエンザ対策	総合司会: 照屋 勝治 (エイズ治療・研究開発センター病棟医長) 照屋 勝治 (エイズ治療・研究開発センター病棟医長) 島田 佳世 (感染症制御研究部) 沼 直美 (専門外来部長) 黒田 恵美 (感染管理認定看護師) 齊藤 真一郎 (薬剤部・医薬品情報管理室長) 川名 明彦 (国際医療センター特別疾病制圧医長)	86
67 平成20年 1月16日 第61回	医療事故防止 1. 医療におけるヒューマンエラー —なぜ間違えるのか防ごう—	総合司会: 上坂 義和 (神経内科医長) 河野 龍太郎 (自治医科大学医療安全学教室)	128
68 平成20年 2月20日 第62回	メタボリックシンドローム最前線 1. メタボリックシンドロームとは何か 2. 小児におけるメタボリックシンドローム —診断基準と我が国の現状—	司会: 梶尾 裕 (糖尿病科医長) 野田 光彦 (糖尿病・代謝症候群診療部長) 西村 理明 (東京慈恵医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科講師)	98
69 平成20年 3月19日 第63回	緩和ケア 1. 当院におけるがん疼痛緩和認定看護師の活動状況 —チームの協働— 2. 看護に活かす緩和ケアのエッセンス —癒しのアプローチ—	総合司会: 有賀 悦子 (緩和ケア科医長) 加藤 美鈴、前川 智子、西尾 綾子 (がん性疼痛看護認定看護師) 阿部 まゆみ (名古屋大学大学院 医学系研究科 看護学専攻 がんプロフェッショナル養成プラン 特任講師)	92
70 平成20年 3月25日 第64回	遺伝的多型性と多様性に学ぶ	講師: 笹月 健彦 (国立国際医療センター総長)	136
71 平成20年 4月16日 第65回	「CKD(慢性腎臓病)を考える」～その本質と日常臨床にどう迫るか?～ 1. CKDとは? 2. 糖尿病・メタボリックシンドロームとCKD 3. 循環器医から見た心腎連関 (CKD) 4. 実地医家からみたCKD	司会: 日ノ下 文彦 (腎臓内科・先駆的医療推進室医長) 日ノ下 文彦 (腎臓内科・先駆的医療推進室医長) 高橋 義彦 (内分泌代謝科医長) 岡崎 修 (循環器科・十階南病棟医長) 迫村 泰成 (さこむら内科)	108
72 平成20年 5月21日 第66回	「肝炎」～今、求められる対策とは?～ 1. 今後の肝炎診療において国立国際医療センターが果たすべき役割とは? 2. HIVとHBVの重複感染の現状 3. 国立病院機構肝炎患者ネットワークにおける臨床研究	司会: 正木 尚彦 (第二消化器科医長) 正木 尚彦 (第二消化器科医長) 田沼 順子 (エイズ治療・研究開発センター医師) 八橋 弘 (国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター 治療研究部長)	170
73 平成20年 6月16日 第67回	「国立国際医療センターの現状」～今、行うべきこと、できることは何か～ 1. 「戸山病院から」 2. 「国府台病院から」 1) 児童精神 2) 精神救急	司会: 木村 壯介 (戸山病院長) 木村 壯介 (戸山病院長) 松枝 啓 (国立国際医療センター国府台病院長) 齋藤 万比古 (国立国際医療センター国府台病院第二病棟部長) 早川 達郎 (国立国際医療センター国府台病院三十三病棟医長)	134
74 平成20年7月16日 第68回	1. 「国立国際医療センターにおける臨床研究の発展のために」	司会: 梶尾 裕 (糖尿病科医長) 桐野 高明 (総長)	78
75 平成20年10月15日 第69回	「急性腹症」 1. 急性腹症の初期診療 2. 急性腹症の画像診断 3. 高齢者の急性腹症 4. 急性腹症の昔と今	司会: 齊藤 幸夫 (外科・第二病棟部長) 小林 憲太郎 (救急部医師) 相部 仁 (放射線科医師) 熊澤 慶吾 (外科医師) 齊藤 幸夫 (外科・第二病棟部長)	99
76 平成20年11月 4日 第70回	1. 「名実ともに評価される独立行政法人国立国際医療研究センターを目指して」	司会: 遠藤弘良 (運営局長) 講師: 高橋俊毅 (関東信越ブロック理事及び独立行政法人横浜医療センター院長)	183
77 平成20年12月17日 第71回	「神経救急」～これを見逃してはいけない!～ 1. 頭部救急疾患の画像診断 ～脳血管障害のCT診断を中心に～ 2. クモ膜下出血 ～見逃しゼロを目指して～ 3. 危険なめまいを見逃さないために 4. 教訓的なくも膜下出血の一例	司会: 上坂 義和 (神経内科医長) 蓮尾 金博 (放射線診療部長) 木村 昭夫 (緊急部長) 松田 俊一 (神経内科医師) 岡本 幸一郎 (脳神経外科・7階北病棟医長)	90
78 平成21年 1月21日 第72回	国立国際医療センターにおける臨床研究をめぐって 1. 総合医療を主軸とした統合的な臨床研究 2. 糖尿病における介入研究 (J-DOIT研究) 3. インフルエンザの死因となる劇症ARDS 4. 「臨床研究に関する倫理指針」の改正点 5. 独法化をふまえた国立国際医療センターにおける臨床研究	司会: 梶尾 裕 (糖尿病科医長) 新保 卓郎 (医療情報解析研究部長) 野田 光彦 (糖尿病・代謝症候群診療部長) 河内 正治 (手術部長) 石塚 直樹 (地域医療研究室長) 桐野 高明 (総長)	92
79 平成21年 2月18日 第73回	胸痛: 的確な診断に向けてのアプローチ 1. 胸痛: 総合診療科外来を訪れる患者背景と診療ポイント 2. 救急車で来院する胸痛を主訴とする疾患 3. 呼吸器疾患における胸痛 ～代表的な疾患とその特徴～ 4. 胸痛をきたす代表的な心疾患 5. 大動脈疾患における胸痛 ～診療のコツと落とし穴～	司会: 保坂 茂 (心臓血管外科医長) 水野 智美 (総合診療科医師) 佐藤 守仁 (救急部・緊急治療医長) 平野 聡 (呼吸器科医師) 田守 唯一 (循環器科医師) 保坂 茂 (心臓血管外科医長)	97
80 平成21年 3月18日 第74回	異状死 1. 救急現場における「異状死」の対応 2. 「異状死」理解のために ～監察医の観点から～ 3. 「異状死」の取り扱いについての制度上の問題点と最近の動向 4. 「裁判外紛争処理」について	司会: 遠藤久子 (臨床病理室医長) 佐々木 亮 (救急部医師) 福永 龍繁 (東京都監察医務院院長) 神谷 恵子 (弁護士) 清水 利夫 (副院長)	74
81 平成21年 4月22日 第75回	海外便り 1. イギリスでの臨床経験 2. 南半球での留学生 3. 公衆衛生学修士 (MPH) 取得の実績とその後のキャリアパス 4. アメリカの卒業 5. 総合討論	司会: 正田 良介 (総合外来部長、教育部長) 水野 智美 (総合診療科) 佐藤 典子 (小児科 4階南病棟医長) 水野 智美 (国際医療協力局) 能登 洋 (医療連携統括室長)	69
82 平成21年 5月20日 第76回	がんにも、がん以外にも役に立つチーム アプローチの緩和医療 1. チームの紹介 2. がん性疼痛認定看護師の活動～排便コントロールを中心に～ 3. チームとしての薬剤師の関わり 4. チーム活動で研修医が学んだこと 5. 緩和ケアチームにおける精神科医の役割 6. “…にもかかわらず、健康である暮らし”を支える緩和医療	司会: 本田 美和子 (ACC専門外来医長) 本田 美和子 (ACC専門外来医長) 加藤 美鈴 (5北病棟部長) 西尾 綾子 (がん性疼痛認定看護師) 百武 宏志 (薬剤部 薬剤師) 中川 堯 (研修医) 加藤 温 (精神科 医師) 本田 美和子 (ACC専門外来医長)	61

開催日	演題名	演者	人数
平成21年 6月17日 第77回	高度先進医療(その1) 1. 当センターにおける肝硬変患者の予後は改善されているか? 2. HIV/HCV合併肝硬変患者に対する骨髄細胞注入療法 3. 幹細胞治療におけるCell proces 4. 脂肪由来の幹細胞と肝臓再生療法 5. ヒト万能細胞(ES細胞、iPS細胞)を駆使した高度先端医療 6. 新宿戸山町産の安全な細胞形質転換法開発 7. 高度先進医療へ向けて一造血幹細胞移植から再生医療・細胞輸注療法へ	司会:湯尾 明(血液疾患研究部長) 正木 尚彦(第二消化器科医長) 塚田 訓久((ACC医師) 萩原 将太郎(5北病棟医長) 大河内 仁志(細胞組織再生医学研究部長) 湯尾 明(血液疾患研究部長) 石坂 幸人(難治性疾患研究部長) 三輪 哲義(高度先進医療部長)	96
平成21年 7月15日 第78回	「DPC」 DPCの仕組みや導入に向けた院内体制の整備から、DPCデータを用いた医療の質評価、病院経営に与える影響、今後の方向	司会:望月 篤(医事第一課長) 講師:長谷川 友記 (東邦大学医学部社会医学講座 教授)	59
平成21年10月21日 第78回	インフルエンザ ～今シーズンの対策～ 1. IMGJにおけるこれまでのインフルエンザ診療と今後 2. 今シーズンのインフルエンザワクチン 3. インフルエンザの社会的側面 4. クロージングリマーク	司会:加藤 康幸(国際医療支援室医長) 泉 信有(国際疾病センター特別疾病征圧班医長) 金川 修造(国際疾病センター渡航者健康管理室医長) Peter Dishi(マサチューセッツ工科大学) 工藤 宏一郎(国際疾病センター長)	132
平成21年11月18日 第79回	みんなで取り組もうNST 1. 「はじめに ～NSTとは何か～」 2. 「看護師の役割について」 3. 「WOCナースの役割について」 4. 「薬剤師の役割について」 5. 「臨床検査技師の役割について」 6. 「管理栄養士の役割について」 7. 「NST活動の成果 ～あおチームの事例紹介～」 8. 「造血幹細胞移植のアウトカム向上」	司会:梶尾 裕(糖尿病科医長) 河内 正治(手術部長) 水口 京子(看護部・看護部長) 鈴木 睦子(WOC認定看護師) 竹木 正亘(薬剤部・薬剤師) 館野 直道(臨床検査部・主任) 曾部 知恵(栄養管理室・主任) 丸谷 晶美(あおチーム・薬剤師) 萩原 将太郎(あかチーム・医長)	76
平成21年12月16日 第80回	看護の専門性とチーム医療 1. 看護の専門性について 2. 小児看護の専門性と今後の課題について 3. 精神看護専門看護師の活動の可能性について	司会:水江 麻紀子(副看護部長) 田村 やよひ(国立看護大学長) 西海 真理(国立成育医療センター小児看護専門看護師) 小川 弘美(聖路加看護大学大学院精神看護専門看護師専攻)	114
平成22年 1月20日 第81回	世界3大感染症の1つ、結核は「現代の」病気で 1. 世界の結核、日本の結核 2. 薬剤耐性結核と分子疫学研究 3. 院内で発見された結核とその対策 4. 日本におけるIGRAの費用効果分析 5. 海外拠点研究報告(ビデオあり)	司会:小林 信行(副看護部長) 市村 康典(中道 真仁(呼吸器科) 切替 照雄(国立成育医療センター小児看護専門看護師) 小川 信之 黒田恵美(院内感染防止委員会 結核小委員会) 小和田 暁子(葛飾区保健所) 慶長 直人(呼吸器疾患研究部長)	126
平成22年 2月17日 第82回	癌治療の最前線 ～分子標的薬の可能性～ [臨床の場から] (1) 大腸がん (2) 肺がん (3) 乳がん [基礎の場から]	司会:杉山 温人(呼吸器科 十二階南病棟医長) 竹下 恵美子(外科医師) 平野 聡(呼吸器科医師) 橋本 政典(外科 第二外科医長) 宮園 浩平(東京大学医学部分子病理学教授)	100
平成22年 3月17日 第83回	平成22年度診療報酬改定について	講師:帯谷 隆 (診療報酬分析研究所 所長)	104
平成22年 4月21日 第84回	世界の母子保健対策に対する国立国際医療研究センターの取り組み 1. カンボジア地域における母子保健サービス向上プロジェクトでの取り組み 2. ベトナム国フエ中央病院における母性・新生児看護の質向上への取り組み 3. 西アフリカベナン共和国における助産施設での青年海外協力隊活動 4. セネガルにおける妊産婦死亡の推計と政策提言 5. 仏語圏アフリカ母子保健研修とフォローアップ 6. 質疑応答	司会:三好 知明(国際医療協力部 派遣協力第二課長) 櫻井 幸枝(国際協力部 派遣協力第二課 助産師) 橋 朋子(前4階北 産婦人科病棟 助産師 現12階南 呼吸器内科) 内田 早苗(前 派遣協力第一課 助産師 現4階南 小児科) 松井 三明(国際医療協力部 派遣協力第一課 医師) 杉浦 康夫(国際医療協力部 派遣協力第二課 医師)	86
平成22年 5月19日 第85回	これからの肝炎対策～国立国際医療研究センターに期待されるミッションとは～ 1. 肝硬変を有するHIV感染者に対する自己骨髄細胞投与療法 2. 最新の知見をいかに全国へ均てん化するか?～肝炎情報センターの役割～ 3. C型慢性肝炎に対するテーラーメイド治療を目指して～インターフェロンαの意義	司会:正木 尚彦(肝炎情報センター長) 塚田 訓久(エイズ治療・研究開発センター) 正木 尚彦(肝炎・免疫研究センター) 溝上 雅史(肝炎・免疫研究センター長)	60
平成22年 6月22日 第86回	糖尿病の基礎と臨床のクロストール ～国立国際医療研究センターにおける取り組み～ 1. 糖尿病研究センターの設立に際して 2. 遺伝子改変マウスモデルを用いた糖尿病の分子機構の解明 3. 最新の知見をいかに全国へ均てん化するか?～肝炎情報センターの役割～ 4. 糖尿病・代謝疾患の遺伝解析と、分子メカニズムの探索 5. 糖尿病情報センター、臨床部門とその活動	司会:梶尾 裕(糖尿病・代謝症候群診療部 第一糖尿病科医長) 春日 雅人(糖尿病研究センター長) 松本 道宏(分子代謝制御研究部長) 鈴木 康志(臓器障害研究部長) 安田 和基(代謝疾患研究部長) 野田 光彦(糖尿病・代謝症候群診療部長)	
平成22年 7月21日 第87回	「インフルエンザについて」		